

Radio On The Street
西谷文和



2023.1.30
第15号

発行責任者：西谷文和

連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33

TEL 06-6170-4757

メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送
しています。今後も年に4回程度発行します。

●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索して
ください。YOU TUBE で聞けます。
チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせ
が来るので便利です。



窓ガラスもコンクリート壁も吹き飛んで

「すごいな、ビルが全部吹き飛んで
いる」。バグダッド郊外のオリ
ンピック省はトマホークミサイ

トマホーク4発で

トマホークを500発も買おう
としている岸田内閣。このミサイ
ルの破壊力を目の当たりにした
人として、「絶対にこんな兵器を
使わせてはならない」と強く思う。
今から20年前の03年、04年にイラ
ク・バグダッドに入った。そこで
目にしたのは…。



着弾点には大きな穴が

ル4発が撃ち込まれ、瓦礫と化し
ていた。(写真1) フセインの長
男ウダイはイラクのスポーツ関連
ビジネスを取り仕切っていて、こ
の巨大なビルのオーナーだった。
オリンピック省の窓という窓、コ
ンクリートの壁、全てが吹き飛び、
鉄骨が露出している。着弾地点に
は大きな穴が開いて(写真2)、
そこに水が溜まり池になっていた。
地下室にはウダイの愛人数名が困
わっていて、職員だけではなく彼
女たちも犠牲になった。

ガラクタ兵器爆買いの政府 悪政に斬り込まないマスコミ ミニコミラジオが反撃する



クラスター爆弾の不発弾で右目失明

罪なき人々も巻き添えになる

このような兵器はたとえピンポ
イントで基地に当たったとしても、
周囲の罪なき人々を殺傷する。ビ
ルの窓ガラスが爆風で飛んできて
目に当たれば失明、(写真3) コ
ンクリートの破片が腕や足に突き
刺されれば失血死するか、一命を取
り留めても細胞が腐り始めたら切
断だ。近所の親子が破壊されたビ
ルの中に忍び込み、タイルを拾っ
ていた。瓦礫の中から売れる物を
集めているのだった。オリンピッ
ク省だけではない、内務省、航空
省、サダムタワー…。フセインの
建物はことごとく破壊されていた。
空爆されなかったのは石油省だけ
だった(写真4)。



石油省 (バグダッド)
空爆されなかったのは石油省だけ

ペルシヤ湾から飛んでくる

アメリカは600キロも離れたペルシヤ湾の空母や潜水艦からトマホークを雨あられのように撃ち込んだ。バグダッド中心部の航空省もやはりトマホークで破壊されていた(写真5)。戦争で家を失った人々がこの建物に住み着き、いわゆる「難民キャンプ」になっていた。航空省の中庭に駐車してあった大型バスが爆風で倒れている。ものすごい爆発力である。こんな兵器を500発持つて先に撃てば、こうした様子が、今やSNSで瞬時に拡散され、国際的な非難にさらされる。そうなれば貿易や投資などが控えられて著し



トマホークで破壊された航空省に難民が住み着いていた

く国益を損なう。だからアメリカはもうトマホークを撃たない、いや撃てない。撃てば、今のロシアと同じことになる。この30年間トマホークミサイルはイラク、アフガン、スーダン、シリアなどで使われてきた。これら諸国は迎撃能力を持っていない。

当たらないのでラッキー

日本が買うトマホークは中国や北朝鮮の基地攻撃を想定しているはず。ほぼ旅客機並みのスピードでしか飛べないこのミサイルは、おそらく迎撃される。しかしその方がむしろ幸運。当たってしまえば甚大な被害が出るので、必ずミサイルを撃った基地、おそらく沖

繩に反撃ミサイルが飛んでくる。そうなれば南西諸島の人々は逃げる場所がない。つまり「絶対に撃つてはいけないミサイル」を500発、2000億円以上かけて購入するのだ。

陸上イージスもガラクタ

17年、ランプとゴルフした安倍晋三は山口県と秋田県にイージスアシオアを配備すると発表。なぜ秋田と山口か？それは北朝鮮がハワイを狙えば秋田上空を、グアムを狙えば山口上空を飛ぶからだ。山口と秋田の人々が反対運動をしたので、政府は陸上をあきらめ、海上に変更した。防衛ジャーナリストの半田滋氏によれば、イージスアシオアは陸上用なのでかなり大きなもの。これを艦船に乗せて海上に配備する場合、甲板の面積が不足して乗らないのだという。ここまでくればもう、アホとしか言いようがない。

現場は「いらぬ」と言っているのに

「未亡人製造機」と呼ばれるオスプレイは陸自に17機配備される。これはエンジンに構造的な不具合があるのと、オートローテーション機能、つまりプロペラを回して

墜落を回避する機能がないので、すでに50人以上のパイロットが墜落死している。自衛隊は輸送機CH47大型ヘリを持っていて、現場は「オスプレイなんかいらぬ」と拒んでいるのに自民党国防族が購入を決めてしまった。オスプレイは千葉県木更津に配備されるが、これが横田基地や群馬や山梨の演習場まで飛ぶことになる。首都圏上空を「未亡人製造機」が飛び回るのだ。

笑うアメリカ、沈没する日本

安倍政権で購入を約束し、岸田政権で爆買するアメリカ製の武器は、ほとんど全てガラクタで使えないもの、である。敵基地攻撃能力の是非は置いておく。指摘したいのは「今回の武器爆買はアメリカだけが喜び、日本を破産に追い込むものである」ということだ。もうすぐ通常国会が始まる。立憲野党は「アメリカ兵器の在庫一斉セール」を国民に分かりやすく伝えながら政府を追求し、軍事ではなく外交で解決する展望を示してほしい。反対世論を高めてこの予算案を廃案に追い込む。5年で43兆円の防衛費はこの国を破滅に導く。今年は正月から正念場を迎えている。

小出先生に聞く その10 原子力マフィアのウソを暴く

(前号まで) 原発のコストが他の発電方法と比べても最も高く、最も危険だということが語られました。そして話はプルサーマルへと移ってきます…。

石油ストーブにガソリン

小出 原子炉はそもそもウランを燃やすために設計されたものです。そこでプルトニウムを燃やすということは、石油ストーブでガソリンを燃やすのと同じようなことをやっているのです。より大きな危険を抱えてしまうこととなります。経済的にも成り立たないし、安全性もない。これがプルサーマルというものです。——これを地震国でやっている。クレージーな行動ですね。

小出 そうです。でもやらざるを得ないところで、日本の愚かな原子力政策が追い込まれてしまった、ということなんです。



戦争と原発はウソで始まる

——例えば「核燃料サイクル」は辞めるしかないと思うのですが、一度決めてやり始めるともう止まらない。この日本型の無責任体質があるのでしようね。

小出 はい、フランスもそうなのでしようが、日本はとことん無責任な体質だなと感じます。

——そんな中で関西電力は美浜3号機の「再稼働を前倒しする」と発表しました。22年10月に予定していた再稼働を2カ月前倒しに、つまり8月に再稼働すると。この背景には「猛暑で電力が不足する」と、恐怖を煽っているように思います。

小出 美浜3号機は1976年12月1日に運転を開始したもので、45年が経過した機械です。みなさん、45年前の自動車に乗る気になるでしょうか？

——なりません。まともに走らないと思います。

小出 原発は自動車と違って巨大な危険を抱えているわけで、むしろ飛行機に例えた方がいいかもしれない。45年前の飛行機にあなた、乗りたいですか？とさえばほとんどの人は恐ろしくて乗らないと思います。こんなものを再稼働しようとしている

るので。なぜこんなことができるのか？それは「福島事故を起こしたから」なのです。

——それはどういうことですか？

小出 福島事故が起きて猛烈な被害がでると分かったわけですが、私自身は福島事故を教訓にして「原発は即刻全てを停止してゼロにすべきだ」と、私はあの事故から学びました。一方、原子力を推進している人たちが得た教訓は「どんなに悲惨な事故を起こしても、誰も責任を取らなくていいんだ」ということと「電力会社は倒産しないんだ」という教訓です。

何しても責任取らずに

——無罪になりましたからね。東電の会長、社長たちが。

小出 何をやっても責任を取らずに済む。これが彼らの得た教訓です。怖いものがなくなっちゃったんです。どんなに古い原発を動かして事故を起こしても誰も責任を取らなくてもいいし、美浜3号機を動かして事故になっても関西電力はつぶれない。と。これを彼らは分かっているのです。だから早く動かしてもつと儲けたい、と。

——特定重大事故対策(特重)というところで、安全対策の工事をしっかりとやらなければならないのに、この工事期間を短縮して早く再稼働したい。つまりより早く儲けたいという彼らの焦りのようなもの？

小出 そういうことです。おまけに特重だつていい加減な対策で、例えばミサイルでやられたらオジャンです。やっつけることそのものが馬鹿げたことなのです。

——最後に原子力マフィアは「電力不足だ、夏も冬もピンチだ」と大合唱しています。でも電力は足りていますよね？

小出 はい、福島の事故が起きてほとんどの原発が止まっても停電していません。例えば2014年は原発が全部止まっていた1キロワットアワーの発電もしていなかったのです。でも電力は足りていたのです。今はさらに省エネが進んでいて、電力の消費量がどんどん減っています。原発を全て止めても電力に困らないということ実は証明しているのです。

——電力会社はまたウソをついて危機を煽って、自分たちが儲かるように、儲かるようにと猪突猛進している、ということですね？

小出 そういうことです。

——はい。今回もよくわかりました。小出さんどうもありがとうございました。

小出 ありがとうございます。

編集長より

遠い記憶の断片があります。私の家は裕福ではなかったため両親は共働きで、私は保育園に預けられていました。ある日、その保育園のお迎えの帰りに、母に手を引かれ二つ上のお兄ちゃんやささやかな誕生日プレゼントを探しにつきあったことがありました。

昭和40年代の大阪四条駅近くの商店街だったと思います。小さなおもちゃ屋さんで、ゲーム盤か何かを買ったのだと思いますが、私はその店の棚の高いところこゝろに小さくて可愛いクマのぬいぐるみを見つけ、その前で立ちすくんでしまいました。聞き分けがよい子で、家が貧しいことあって欲しいものがあってもうながままを言ったことがないようなおとなしい子だった私は、

その時ただ黙って見とれていたのだと思います。会計を済ませ戻ってきた母は私を見かね、やさしく「欲しいの？」と尋ね、もじもじ下を向いていた私に、少し考えた後、そのクマを棚から取って抱かせてくれました。そしてお財布の奥から、恐らく父から与えられたものではない小さく畳まれたお金を出して、だまって私にそれを買ってくれました。

私は小学校の修学旅行の前まで、そのクマといっしょに寝ていたといえますから甘ちゃんです。クマはいつしか中綿が飛び出るほどぼろぼろになりましたが、あの日の帰り道、坂の上にあった大きな夕焼けと、つないだ母のてのひらのぬくもりは、もうアラ還にもなる私の記憶に

鮮明に残っています。別の話ですが、そんな私には今は3人の子どもがいます。うち小さい頃から携帯電話を持たせない方針でいたのですが、長男には思春期で荒れていた頃やつと買いました。その長男が、おもちゃの携帯電話で無邪気に遊ぶ妹を見ていて「携帯くらい買ってやれよ！全くせつないなあ！」と私にどなったことがありました。言葉は乱暴でしたが、何だか私は、この子の中に確かなものがあると思えて、少しだけ安心したものです。

若者の中で言葉がどんどんと壊れていつているように思える今、「せつない」という言葉と感情が、この世からなくならないで欲しいと願います。昭和の時代、常識が通じない、あるいは意を解

さぬ若者を、よく「宇宙人」と呼びました。いつの時代においても、当然にして世代間のギャップはあるわけですし、もの考え方も言葉も変遷していくのは当たり前、それが文化そのものなのでしょう。堅物な親父なんでしょうが、当時の「宇宙人」も今は社会の一線で活躍しているはずですから、変容を受け入れながらも、大切なこと、大事なことをきちんとかぎ分ける力だけは、残し伝えて行くことが大人の責任なのだと思います。少なくとも殺し合う世界など到底許すことはできないのですから、行動せねばなりません。

(ディレクター・山本 索)

絶賛発売中!



編集後記

在日コリアンのクーさん(仮名)と電話対談をした。16年2月、彼女はスイスのジュネーブに行った。国連の女子差別撤廃委員会で訴えるためだった。そこに落選中の杉田水脈も来ていた。「従軍慰安婦はなかった」と主張するためだ。杉田はクーさんたちを隠し撮りし、翌日「小汚い格好に加え、チマチョゴリやアイヌ民族衣装のコスプレおばさん登場。完全に品格に問題があります」とブログに書き込んだ。ご丁寧にも隠し撮りした写真付きだった。怒りを通り越して悲しかった。しかし抗議の声を上げることはできなかった。この頃、在特会が「朝鮮へ帰れ!」「キムチ臭いわ!」などのヘイトスピーチを繰り返していて、胸が締め付けられ、足がすくんでいたからだ。あれから7年、国会でようやくこの差別が追求された。7年の沈黙を経て、クーさんたちはやっと声を上げることができるようになった。なんてこんな人物が国会議員で、しかも政務官にまで!杉田を自民党の中国ブロック比例1位にしたのは安倍元首相だ。醜悪な安倍政権と極右議員たち。次の選挙では杉田を絶対に落選させねばならない。(謝罪を求める署名をお願いします。ネットで「反差別国際運動」と検索してください)